

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：一般国道337号 <small>とうべつ</small> 当別バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北海道開発局		
起終点：自： <small>ほっかいどういしかり</small> 北海道石狩郡当別町 <small>わらびたい</small> 蕨岱 至： <small>ほっかいどういしかり</small> 北海道石狩市 <small>おやふる</small> 生振		延長：15.4km		
事業概要： <p>一般国道337号は、千歳市を起点とし長沼町・南幌町・江別市等を経由し小樽市に至る延長約80kmの幹線道路である。</p> <p>このうち当別バイパスは、当別町と石狩市を結ぶ路線の交通混雑の緩和や道路交通の定時性、安全性の向上及び、物流効率化を目的とした、当別町蕨岱から石狩市生振に至る延長15.4kmのバイパス事業である。</p>				
S55年度事業化	H—年度都市計画決定	S57年度用地補償着手		
全体事業費：約630億円	事業進捗率：88%	供用済延長：10.1km		
計画交通量：17,300～28,300台/日				
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 2.4 (残事業) 4.4	総費用： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 86/980億円 (事業費：71/905億円) (維持管理費：15/75億円)	総便益： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 383/2,305億円 (走行時間短縮便益：337/1,920億円) (走行経費減少便益：33/311億円) (交通事故減少便益：13/75億円)	基準年： 平成24年
感度分析の結果：事業全体および残事業について感度分析を実施				
【事業全体】交通量：B/C=2.0～2.7(交通量±10%) 事業費：B/C=2.3～2.4(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.3～2.4(事業期間±20%)				
【残事業】交通量：B/C=3.7～5.2(交通量±10%) 事業費：B/C=4.1～4.8(事業費±10%) 事業期間：B/C=4.3～4.5(事業期間±20%)				
事業の効果等				
事業の必要性及び効果				
①重要港湾石狩湾新港への利便性向上 ・安定した輸送ルートが確保され、重要港湾石狩湾新港への利便性向上が期待される。				
②交通混雑の緩和 ・交通混雑が緩和され、定時性の確保や利便性の向上が期待される。				
③道路交通の安全性向上 ・車線数減少による通行車両の輻輳が解消するなど、道路交通の安全性向上が期待される。				
④食品雑貨等の流通利便性向上 ・円滑な交通が確保され、食品雑貨の流通利便性向上が期待される。				
⑤救急搬送の安定性向上 ・高次医療施設への救急搬送の速達性及び安定性向上が期待される。				
⑥CO2排出量の削減 ・自動車からのCO2排出量21,644(t-CO2/年)の削減が期待される。				
関係する地方公共団体等の意見				
地域から頂いた主な意見等： 江別市など5市3町の首長で構成される道央圏連絡道路整備促進期成会等より早期整備の要望を受けている。				
知事の意見： バイパスの整備により、道央圏の外郭環状道路を形成し、新千歳空港や苫小牧港、石狩湾新港の連絡を強化することで物流の効率化が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、事業の継続にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。				

札幌市長の意見：

一般国道337号は、本市の骨格道路網を形成する重要路線のひとつとして位置づけられており、その拡幅整備は道央圏のネットワーク強化に資するとともに、市民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の「対応方針(原案)案」のとおり継続とすることについて異議はございません。

なお、事業の実施にあたっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、コスト縮減に積極的に取り組み、効率的・効果的な事業執行により早期供用が可能となるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成11年10月 北海道横断自動車道 千歳恵庭ジャンクション～夕張インターチェンジ供用
- ・平成17年 3月 道央圏連絡道路 江別東インターチェンジ～豊栄ランプ供用
- ・平成22年12月 道央圏連絡道路 新千歳空港ランプ～中央ランプ供用
- ・平成23年 3月 道央圏連絡道路 豊栄ランプ～蕨岱ランプ供用
- ・平成23年11月 一般国道275号蕨岱拡幅 全線供用
- ・平成24年12月(予定) 石狩LNG基地稼働予定

事業の進捗状況、残事業の内容等

昭和56年度に工事着手して、用地進捗100%、事業進捗率88%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

歩道計画の見直し等、コスト縮減対策に取り組んでいる。

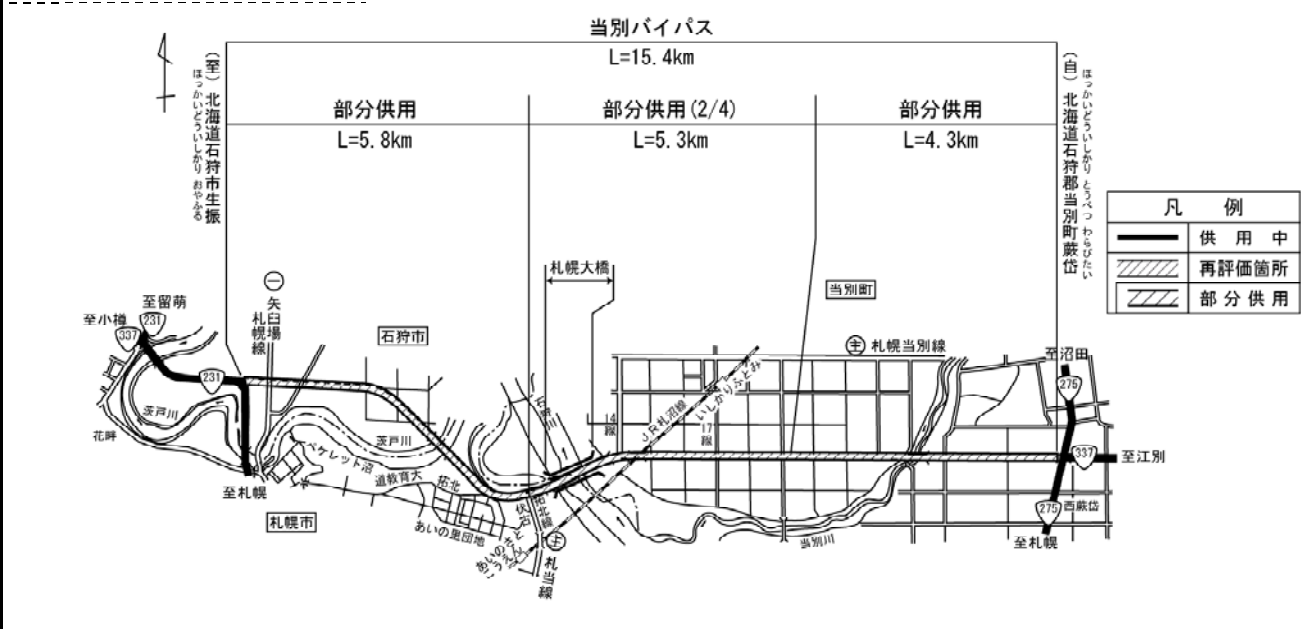
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。